

平成 23 年度第 3 回構造設計における冗長性と性能最適化小委員会議事録

- 日時：2012 年 3 月 22 日(木) 14:00-16:00
- 場所：建築会館・会議室
- 議題：応用力学シリーズの検討
- 出席者：竹脇，浅岡，朝川，磯部，伊藤，高田，趙，福田，山川（敬称略）
- 配布資料：

【No. 12-1】はじめに（竹脇主査）

1. 応用力学シリーズ原稿の状況とスケジュール説明（竹脇主査，資料 No. 03-001）

- ・ 現在は応用力学運営委員会（荒木先生，松本先生）の査読を受けており，4 月に結果が返ってくる。
- ・ 夏頃に構造委員会の査読が始まり，秋頃に結果が返ってくる。
- ・ 章ごとの執筆者は配布した「はじめに」のように記される。

2. 各章について

- ・ 今回は原稿について気付いた点をお互いに指摘する。

※今回の議事録について

- 議論した順に記録を示す。
- 全員の参考になる修正事項と欠席者（第 4,10,11 章）への意見についてのみまとめる。

第 3 章（浅岡委員，朝川委員）

- ・ 用語を統一する。
ロバストネス→ロバスト性，リダンダンシー→冗長性，バラツキ→ばらつき
- ・ 図表には必ず番号，キャプションを振る。
- ・ 専門家（設計者）にとって自明なことでも背景を解説して，大学院生でも読めるようにして欲しい。（竹脇主査）
→頁数が増えても良い。
- ・ タイトルを修正する。
→「冗長性とロバスト性を考慮した設計例」

第 6 章（福田委員）

- ・ (p.2) 最適化問題の書き方について
 - 英語と日本語を混在させない。例) 制約条件，subject to

- 日本語の説明は後ろにかっこをつけて書く．例）（釣合い方程式）

第 1 章（竹脇主査）

- ・ 図に色がついていても構わない．ただし，モノクロになっても問題ないように配慮する．（竹脇主査）
- ・ レジリエンス，リジリエンス，リジリエントの使い分けは？（伊藤委員）
→レジリエンスに統一する．（竹脇主査）

第 2 章（竹脇主査）

- ・ 他章との関係等について議論した．

第 4 章（寒野委員）

- ・ 他章にあわせて節の最初は字下げして欲しい．（竹脇主査）
- ・ 例の終わりの■は必要か？（竹脇主査，磯部委員）
- ・ 行間・フォントの大きさが他章と異なる？
→Tex なので対応が難しい？

第 5 章（伊藤委員）

- ・ 数式の様式を統一する．
 - 式はなるべく中央揃えにする．
 - 式番号の様式（右揃え等）は特に指定しない．
- ・ 参考文献の“”は不要である．

第 7 章（磯部委員）

- ・ 様式，計算時間，他章との関係等について議論した．

第 8 章（高田委員）

- ・ 様式，他章との関係等について議論した．

第 9 章（山川）

- ・ 様式，内容の表現方法，他章との関係等について議論した．
- ・ 最適化問題の書き方を他章と合わせる．

第 10 章（曾我部委員）

- ・ （図 10.6 他）全塑性曲げモーメント→全塑性モーメント（竹脇主査）
- ・ （図 10.7）部材強度の頻度分布について，全体の試行回数も説明してほしい．解析 1,000 回との関係は？（竹脇主査）

第 11 章（中村委員）

- ・ ストラクチャ・ノンリニアリティ→構造非線形性？（趙委員）
- ・ 図について引用をする必要があるのでは？（竹脇主査）
- ・ 11.5.2，11.5.3 のタイトルのフォントが違う？（竹脇主査）
- ・ p.7,11,12 の下に動的相互作用と冗長性・ロバスト性との関係が少し述べられているが，もっと詳細に解説してほしい．（竹脇主査）

第 12 章（趙委員）

- ・ 様式，例題の説明等について議論した。
- ・ 図，キャプションを中央揃えにする。

3. その他

- ・ 今回の指摘を受けて修正した原稿を直ちに提出する必要はない。
→今回の修正を反映させた原稿は査読対応時に合わせて提出する。（竹脇主査）
- ・ 各章の最初の節の「はじめに」，「序」を統一する？（高田委員）
→「はじめに」に統一する。該当する節がなければそのままよい。（竹脇主査）
- ・ 目次と本文が整合していない部分がある。（趙委員）
- ・ 英数字のフォントは Times Roman を推奨とする。ただし，統一する必要はない。（竹脇主査）